

ウェブサイトはこちら!

福島第一原子力発電所で働く
みなさんへのお知らせ

2019年

月刊 いちえふ。

6月

INDEX

■ いちえふのいま

メガフロート移送工事

■ 1Fを守る仲間たち

● 3号機原子炉建屋
カバーリング工事

共同企業体(JV)のみなさん

● 3号機の燃料取扱設備 設置工事
諏訪園 司さん

■ 安全の心得【火気作業編⑬】

■ 福島Q&A

プレゼント

福島名産の
つめ合わせ

とびっくす



全国安全週間が始まります!

今年も7月1日からの1週間が「全国安全週間」
です。今年のスローガンは「新たな時代に
PDCA みんなで築こう ゼロ災職場」です。

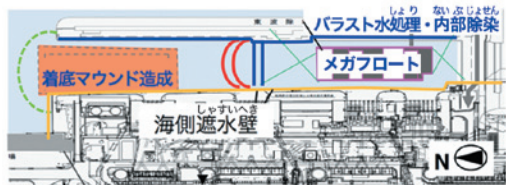
令和元年の「相馬野馬追」が7月に開催!

今年は7月27日～29日に相双地域で開催。
国の重要無形民俗文化財にも指定されている
伝統の祭りをぜひ見に行きませんか。

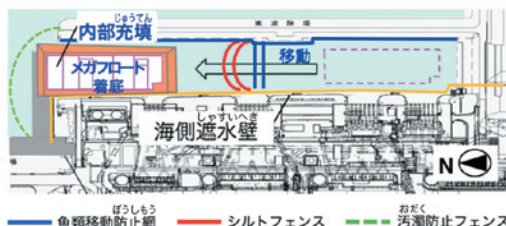
梅雨時のゲリラ豪雨にご注意!

近年は短期間に局所的に猛烈な雨が降るという
現象(ゲリラ豪雨)が頻発しています。降雨時は気象
情報などを確認し、対策をするようにしましょう。

いちえふのいま

【ステップ1】メガフロート移動、バラスト水処理・
内部除染、着底マウンド造成作業

【ステップ2】メガフロート着底、内部充填



メガフロートの移設ステップ

メガフロート移送工事

5・6号機建屋の滞留水を一時貯留する際に活用したメガ
フロートは、ろ過水をバラスト水(船底の重し)として貯留した
状態で、港湾内に係留してきました。係留する状況が継続すると、メガフロートが津波漂流物と
なり周辺設備を損傷させるリスクがあることから、移設工事を
進めています。移動時に海側遮水壁を損傷させないよう、盛土を設置し、
5月16日に1～4号機取水路開渠内にメガフロートを移動
させました。また、メガフロート内部のバラスト水の処理・除染
および、着底マウンドの造成にも着手しています。2020年度上期の作業完了を目標に、安全最優先で作業
を進めていきます。

58 3号機原子炉建屋カバーリング工事
共同企業体(JV)のみなさん「浜通りを元通り!」を合言葉に
力を合わせて難工事に取り組んだ

2019年4月15日から3号機使用済燃料プールからの燃料
取り出し作業が開始しました。燃料を安全に取り出す準備と
して、ガレキを取り除き、除染・遮へいを行い、カバーをかけ
る工事が2018年10月まで続きました。この工事を担当
したのが、3号機原子炉建屋カバーリング工事チームです。

—— カバーはかなり大きいですが、なぜかまぼこ型ですか。

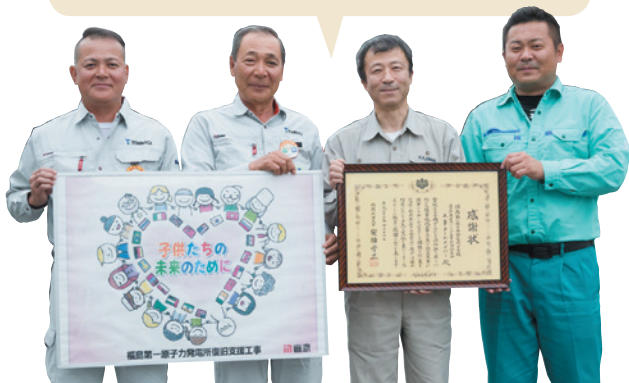
岡田さん：カバーの大きさは、かまぼこ部の高さ約18m、
長さが約57×23mという巨大なものです。かまぼこ型の
大きな理由は、四角くした場合に比べて軽くでき、内部で作業
する空間を広く取れるためです。

—— それにしても、長い時間がかかる難しい工事でした。

飯田さん：建屋まわりのガレキを取り除くことから始めて、
遮へいのために鉄板を敷いたり、最後は資機材の片付けまで、

Message

まだまだ長い道のりですが、お互いに誇りを
持って仕事をしましょう。



(写真左から)

喜瀬 卓也さん(富永工業)

鮫島 弘一さん(富永工業)

岡田 伸哉さん(鹿島建設)

飯田 雄介さん(山田工業)



3号機燃料取り出し用カバーが設置された全景

ずっとこの仕事に携わってきましたから、4月に実際に燃料の
取り出しが始まったと聞いて、ようやくここまでたどりついた
なと感無量です。

鮫島さん：1Fでは装備も違いますし現場のルールも違います。
一般の現場のつもりで作業をすると事故が起きてしまいます
ので、違いをしっかりと伝えることに気を使いました。

—— 作業チームに総理大臣の感謝状が送られました。

喜瀬さん：安倍総理との懇談は緊張しました。総理には、
1Fに来てからの作業内容や苦勞したことなどを話しました。

—— 朝礼では合言葉があるそうですね。

岡田さん：毎朝の朝礼の最後に、みんなで声を合わせて
「浜通りを元通り!」と言い続けています。昔の姿に戻す
お手伝いができればと思う気持ちは、誰もが共通しています。

工事のチーム

3号機原子炉建屋カバーリング工事共同企業体(JV)

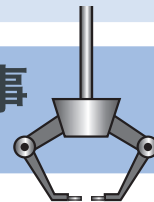
3号機の使用済燃料プールから燃料を取り出す
ために、原子炉建屋にカバーを取り付けること
を目的としてつくられた、同工事の元請。

● 続きはウェブサイト「1 FOR ALL JAPAN」でお読みください
URL: <https://1f-all.jp/interview/58/>

59

3号機の燃料取扱設備 設置工事

東芝エネルギーシステムズ 諏訪園 司さん



燃料が吊り上げられたのを見て 心の中で喜びの声を上げた

2019年4月、3号機の使用済燃料プールから燃料の取り出しが始まりました。今回紹介する東芝エネルギーシステムズは、燃料を取り出すための設備を製作・設置した会社です。遠隔操作など、これまでに例のない特別な機能を持つこの設備について、設計から実際に動かすまでの苦勞を聞きました。

—— まず、この設備の仕組みを教えてください。

燃料取扱設備は、大きく分けて2台の機械からなっています。1台は燃料取扱機で、使用済燃料プール内で燃料を吊り上げて、「キャスク」と呼ばれる、発電所の構内で燃料を輸送する容器に収めるためのものです。使用済燃料プール内にあるガレキを取り除く作業も行います。もう1台は、燃料を収めたキャスクを吊り上げて使用済燃料プールから地上に吊り下ろすクレーンです。現場は、放射線量が高いため、操作室から遠隔操作するようになっています。

—— どういう点が難しかったですか。

この設備は、京浜事業所内でさまざまな試験をして、問題点はほとんどなくしたつもりだったのですが、1Fの現場に据え付けてみると、同じように操作をしても、うまくいかないという



3号機の燃料取扱機・クレーンの搬入の様子

メッセージ

事故直後の3号機からよくここまで来たなと思います。今後お互いに頑張りましょう。



ことがありました。本来ならば、試作機をつくってさまざまなテストをしてから量産機をつくるのですが、今回はそうはいきません。試作機を実用に使うという点に難しさがありました。

—— 今年の4月から燃料の取り出しが始まりました。

それまで、訓練でダミーの燃料を吊り上げる様子は見てきたのですが、今度は本物の燃料を吊り上げることができたんだなと思い、ほっとするとともに感激しました。その瞬間は、私は操作室で立ち会っていましたが、周囲には関係者がたくさんいたので、一人で大声を出すわけにもいかず、心の中で喜びの声を上げました。3号機の燃料取り出しはスタートしたばかり。予定では2020年度末まで続くことを考えると、身が引きしめる思いです。

つと お勤め先

東芝エネルギーシステムズ株式会社

原子力、火力のほか、再生可能エネルギー、電力流通、水素エネルギーなどのシステムを手がける会社として、株式会社東芝から分社して発足。

● 続きはウェブサイト「1 FOR ALL JAPAN」でお読みください
URL: <https://1f-all.jp/interview/59/>

安全の心得

火気作業編 13

火気作業の種類と対応区分 その2

○:必要 ×:不要

対応項目	①作業予定表・ 防護指示書		②火気等使用 許可申請書※ (中央操作室へ FAX)	③1Fマップ システム登録※	④中央操作室 への電話連絡 (火気作業 開始・終了)	⑤監視員による 随時確認	⑥監視 (高線量区域の 監視員は兼任可)	⑦残火確認
	火器名	火 スタンプ						
クラス1	A	○	○	○	○	○	○(専任)	○
	B	○	○	○	○	○	○(監視)	○
クラス2	○	×	×	×	×	×	×	×

※喫煙、ストーブ等の火気を使用する場合も、火気等使用許可申請および1Fマップシステム登録が必要です

福島QUIZ

今月は福島QUIZ第7回です。福島県にまつわるクイズを毎月出題します。あなたはどのくらい知っていますか？

Q7. 福島県出身の偉人として知られる、有名な細菌学者は誰？

- ① 北里柴三郎
- ② 志賀潔
- ③ 代田稔
- ④ 野口英世

▶ 今号のプレゼント

福島名産の詰め合わせです。

※賞品は写真と異なる場合がございます



▶ 応募方法・プレゼントのお受け取り方法

福島QUIZに正解した方の中から抽選で5名様にプレゼントをさしあげます。

入退域管理棟、福島第一登録窓口通入口にある応募箱に必要事項をご記入のうえ、ご応募ください。

応募箱設置期間 7月1日～7月22日

- ※応募用紙は応募箱横に設置しています。
- ※当選者の発表はプレゼントの発送をもってかえさせていただきます。
- ※答えはウェブサイト「1 FOR ALL JAPAN」新着情報で発表します。

「月刊 いちえふ。」休刊のお知らせ

長くご支援いただいた「月刊 いちえふ。」は、2019年7月号をもって休刊させていただくことになりました。作業員のみなさんへのお知らせは「1 FOR ALL JAPAN」の充実を図り引き続き発信してまいります。これまでのご愛読、ありがとうございました。



<https://1f-all.jp/>

月刊いちえふ。
2019年6月号

【発行日】2019年6月28日
【発行】
東京電力ホールディングス株式会社
福島第一廃炉推進カンパニー
廃炉コミュニケーションセンター
コミュニケーション推進グループ
【お問い合わせ先】
Mail: info@1f-all.jp